

法人、教員職員が一体となって 誇れる母校づくりを

新年明けましておめでとうございます。

世の中の動きは大変に激しく、国外では、種族、宗教、経済などの対立をもとにした紛争が続く、国内では政権が交代し、政治、経済、教育、医療、介護などの多方面に互り不安定な状態が続く、不況の波が打ち寄せて、多くの困難な課題が提起されています。

私共は、そのような社会教育環境のなかで、福岡歯科大学の使命を認識し、建学の精神を忘れず、私共皆で作った中期構想の実現に努力したいと思えます。新春を迎え、次の項目を今年の重点目標として、皆さんと共に努力したいと思います。

1. 「口腔医学（口腔科）」の学問体系の確立に向けて、教育カリキュラムを充実し、また、学界、医療界、行政および社会の理解・協力を得るため、関連国公立大学および関係諸団体との連携強化を図る。

「歯学から口腔医学へ」の学問体系の改善を図ることとは、単に学問的意義が大きいくだけでなく、歯科医療を真に患者中心のものとする上でも重要であり、また歯学、口腔医学を旨とする若人達に夢と希望を与えるものと思えます。

お正月にいただいた年賀のなかにも、口腔医学の体系確立に努力しましょうというお言葉を沢山いただき感謝しました。福岡歯科大学がトップランナーとして目的を達成するためには、皆で協力することが最も大切なことと思えます。皆様と一体となって頑張ります。

2. 学生募集活動を戦略的・積極的に行うため、入試広報、渉外体制の整備強化を図るとともに、入学選抜方法の見直しおよび高等学校等との連携を一層進める。

3. 国家試験対策等の充実・強化を図り、歯科医師国家試験合格率の向上を維持し、歯科衛生士・介護福祉士国家試験については全員合格を達成する。

4. 教育面では、教養ある歯科医師養成を目指し、特に「歯学連携演習」や「診療参加型実習」の充実、eラーニングの活用を図る。また、専門的口腔ケア教育、

や、口腔ケア技術を含めた介護技術教育を推進する。

5. 大学院を充実する。学内研究センターを中心として社会のニーズに応える先進的研究を推進する。若手研究者や意欲的な研究活動に対する研究支援策を検討する。

6. 病院の機能的・戦略的運営を行うためのマネジメント体制を確立し、診療部門別会計データ等を活用して病院財政の健全化に努めるとともに、患者増に努める。来年度の医療機能評価受審に向けて病院機能の充実を図る。

7. 介護老人保健施設と介護老人福祉施設は、地域の保健福祉のモデル施設としてサービス等の充実に努めるとともに、教育・研究の場として協力する。また、ディケア・デイサービスの利用を拡大を図る。

8. 社会連携・貢献について、公開講座の充実や歯科医師対象教育プログラムの実施等の地域貢献に努めるとともに、アメリカ・欧州・東アジアの大学等との学术交流を推進する。

9. 財務・人事について、新病院建設や教育研究振興のため、基本金等の自己資金の確保に努めるとともに、競争的研究・教育資金獲得の取り組み推進のため、全学支援体制の整備・強化を図る。事業・業務等の見直しを加速し、コスト意識を徹底するとともに、教職員の人事考課システムや効果的なインセンティブ付与について検討する。

10. 安全管理について、全ての学園活動を支える安全安心な情報ネットワークの基盤整備および情報管理体制を構築するとともに、業務適正化のため法令遵守を徹底する。

今年も引き続き、法人、教員職員が一体となって、正しい倫理観としっかりした価値観、それに目的意識を持って、人と人との絆を大切に、明るく楽しい学園を作り、学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校をつくることを目指したいと思います。皆様、元気で頑張ります。



理事長 田中 健蔵

創立四十周年の節目を 新たな飛躍の年に

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族、ご友人等と共に、それぞれの新たな年を迎えられ、新年の誓いを立てられたことと思えます。皆様ひとりひとりが立てられた誓いを、それぞれの中で実現され、本年が皆様にとって新しい飛躍の年になることを心よりお祈り申し上げます。

福岡歯科大学は昭和四十七年の設置以来、今年で四十年の節目を迎えます。この間、存亡の危機となる困難もありました。しかし、その時々々の先達の努力と強い意志によって、そうした困難を乗り越えてきました。今日を迎えられたのは、全てを心に秘め、福岡歯科大学を、その教育と研究を支えられた多くの先輩諸氏の血の滲む努力によるものと思えます。

私達は、その意志と努力をしっかりと受け継いで、大学の礎をより強固に固めることを託されています。

大学は今、苦難の時代を迎えています。この苦難は、一大学の努力で解決できるものでもありません。しかし、福岡歯科大学が直面している困難は、福岡歯科大学が克服することしか解決の途はありません。

私達一人一人が、この困難を切り拓くため何ができるかを考え、それを実行することが必要です。それぞれが持つ特長を活かして、教育、研究、診療の向上に努めてくださることを期待いたします。大学が皆さんや皆さんの家族に対して出来ることは、皆さんや皆さんの家族が大学

に対して何ができるかに依っています。苦しい時代だからこそ、お互いに助け合い、協力して困難に立ち向かうことが必要です。



学長 北村 憲司

大学を取り巻く状況は、また、予測がつかない状況にありますが、有能な歯科医師を育成する」という大学の原点に立ち返り、しっかりと次代の医療者を創る努力を重ねることが、今、最も私達が求めなければならないことだと思えます。そうした努力が結果につながるとともに、その努力自体が次代を創造するひとつの結果になると思えます。

福岡歯科大学は、今世紀の医療モデルとして口腔医学を提唱し、口腔医学教育に基づく歯科医師養成を、社会に提案してまいります。この考えは多くの方の賛同を得ていますが、その実現には、更に努力が必要ですが、私達一人一人がその実現に向けた強い意志と協力によって、この一年を新たな飛躍の年として、進んでいきたいと思えます。

ことしは辛卯か（とう）の年に当たりますが、辛は、新しい、卯は、茂る、という意味があるそうです。辛卯はまさに古い時代が終わわり、新しい時代が幕を開ける年であり、私達にとって希望の年であり、また、福岡歯科大学を支える皆様にとっても、飛躍の一年となりますことを切に祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

ことしは辛卯か（とう）の年に当たりますが、辛は、新しい、卯は、茂る、という意味があるそうです。辛卯はまさに古い時代が終わわり、新しい時代が幕を開ける年であり、私達にとって希望の年であり、また、福岡歯科大学を支える皆様にとっても、飛躍の一年となりますことを切に祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。